

第9回合同シンポジウム 障害当事者とコロナ禍を考える 感想

野崎 展史

公益社団法人 日本理学療法士協会

1. 受講したきっかけ

私は日本理学療法士協会で医療・介護・福祉領域の政策立案の仕事を担当しております。自己研鑽の一環で、障害当事者の考えや障害福祉分野で活躍する方の考え方を学びたいと思い、本シンポジウムに参加しました。

2. 障害福祉を深く考えるきっかけに

シンポジウムの冒頭に話題提供をいただいた大利講師（都庁職病院支部書記長）の話では福祉に関する基本的な考え方を学ばせてもらいました。大利講師は講演の中で「福祉を突き詰めて考えると基本的人権の保障をいかに守っていくかという考えにたどり着くのではないか。」と話されており、強く共感いたしました。

例えば、起きる・座る・立つ・歩くといった基本動作の回復を支援し、食事や排せつ、更衣等の自立を支えることが理学療法士の日常的な職務の1つであります。それら1つ1つが障害者の基本的人権を守ることに繋がっているのだと改めて感じることができました。

■ 車いすユーザー向けの感染症対策のマニュアル作成

新型コロナウイルスの感染拡大に対応する取り組み等を紹介するシンポジウムの後半では、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会が主導となって、先行して海外で公表されていた車いすユーザー向けのコロナウイルス感染症対策のマニュアルを翻訳

し、日本語版として公開されたとお聞きしました。マニュアルの一部を紹介いただきましたが、車いすユーザーならではの視点が多く含まれており、非常に参考となるものばかりでした。

なおシンポジウム全体を通して、障害福祉領域において、「脊髄損傷」、「車いすユーザー」、「就労支援」は一つのトピックスと感じました。この機会をきっかけに障害福祉領域の見識をさらに深めたいと思える素晴らしいシンポジウムでした。

公益社団法人 日本理学療法士協会

〒106-0032 東京都港区六本木 7-11-10